黒潮と奄美大島への影響

黒潮は、世界でも代表的な海流の一つで、フィリピンの東海岸から北へ台湾と奄美大島を含む琉球列島の東側を流れ、日本の東海岸を通り、北太平洋を時計回りに流れる海流の西側を差している。黒潮は暖流で時速 4 キロの速さで流れ、島々の気温や天候、沿岸の形成にも大きな影響を与えている。暖流からの熱により雲が発生し、奄美大島には十分な雨が降り、温暖湿潤な亜熱帯気候を作り出すことにより、豊かな広葉樹林や海洋生物が生息することができる。

黒潮の名前の由来は周辺の淡い色より濃い水の色からくる。濃い色は海の深さからで、海流の表層自体は栄養が乏しいため、海洋生物の生息数が少なく、実際は透明である。しかし、海洋学者はこの栄養分が少ない海に多くの魚が回遊や産卵のために集まり、その他の水産資源が豊富な理由が謎とされ、「黒潮パラドックス」と呼んでいる。最近の研究では、表層のはるか下に栄養分の高い層が流れているのではないかと考えられている。